

最初のお話を始めたいと思います。

先日、かつて通っていた学校の行事に久しぶりに出席してきました。そこである方のお話を伺うことができました。お話をされたのは、技術系の分野におきまして長いこと研究者として活躍してこられた方です。もうかなりの高齢でいらっしゃいますが、一時間ほどお話をしてくださいました。淡々とお話をされていましたが、後から振り返ってみますと、多くの考えさせられる内容が含まれていたように思います。

そんな中で、まず紹介したいのが、アメリカの大学についてお話された部分であります。

アメリカの大学から多くの成果が生み出されてきたことは御承知のとおりであります。その背景として挙げられたのが、大学の自主性でありますとか自律性ということであります。さらには、様々な人々が世界中から集まってきているということも挙げられました。そういう人々が自由に研究できる環境が整えられているということが背景にあるのではないかということでもあります。

世界中から集まってきている人々の中には多くの留学生の存在があることも忘れてはなりません。そして、留学生にはまた別の役割があるということもお話しされました。それは、留学生の存在が国と国との対立を和らげるということとであります。

そこではドイツとフランスの例も紹介してい

ただきました。かつて戦争ばかりしていたという印象のある両国であります。さきの大戦が終わってから、八百万人もの人々の交流を実現したということでもあります。そして、せめてそのくらいのことをやらないといけないのではないかとということもお話しされました。

こういうお話を伺った後で昨今の風潮について考えてみますと、何とも言えない気持ちになつてしまふのは私だけではないように思います。

さて、次に紹介したいのは、絶対に安全だという思想ほど危険なものはないということでもあります。考え方などではなく、思想という言葉を使われたのが印象的でありました。

具体的な例も挙げていただきましたが、一つだけ紹介したいと思います。

大分前になりますが、アメリカにおいて地震によつて高速道路が倒壊するということがありました。このとき日本の専門家は、国内の高速道路は安全だから同じようなことは起こらないと言っていたそうであります。しかし、その後に関西で起こった地震では何が起こったでありましょうか。

そこで話されたことは、建築物などの人工的に造られたものについては一〇〇%の安全ということではない、しかし、それでも一〇〇%の安全に近づけるための努力を怠ってはならないということとありました。大丈夫だと思ったそのときから安全が損なわれ始める、そのことを強

調されていたのが強く心に残りました。

ちよつと難しい話になってしまいました。次は、甘いものについてのお話で少しリラックスしていただきたいと思います。

取り上げるのはスイカであります。

夏を代表する果物といえますと、まず思い浮かぶのがスイカだと思います。皆さんの夏思い出にもスイカはよく登場するのではないかと思います。おばあちゃんのうちでみんなで食べたでありますとか、中には、落として割つてしまったという方もいらっしゃるかもしれません。一方で、縁側で食べたでありますとか種を庭に飛ばしたというようなことは、最近の住宅事情からしますと、昔の思い出になっているようにも思います。ましてや、井戸をのぞくとスイカが冷やしてあったなどという思い出をお持ちの方は、今やかなり少なくなっているに違いありません。

そんなスイカであります。相変わらずスーパーの店頭にはずらりと並んでいます。ただし、以前と比べますと、小さいものが増えているように思います。また、食べやすいようにカットされたものもよく目にします。

さて、どうせ食べるなら甘くておいしいものが食べたいということで、幾つかのサイトをのぞいてみることにしました。その中で、スイカの特徴について触れたものがありましたので御紹介したいと思います。

その一つが、スイカは収穫されてから甘さを

増していくということはないということであり
ます。つまり、収穫されたときが一番おいしい
ということでもあります。

もう一つは、食べやすいようにカットされた
ものと一つ丸ごとのどちらを買うべきかという
ことであります。これはもちろん丸ごとのほう
がいいということでもあります。

また、スイカはすぐ食べるにこしたことはな
いけれども、思った以上に日もちするというこ
とであります。今は小さいスイカも出回ってい
ますから、少人数ならば、そういうものを買わ
れるといいのではないかと思います。

さらには、おいしく食べるための切り方であ
りますとか、一番おいしく食べられる温度など
も紹介されていますので、興味のある方は探し
てみるといいと思います。

あるサイトで強調していたのが、おいしいス
イカを作ることができるかどうかは生産者の技
術にかかっているということです。様々
な生産者のサイトをのぞいてみますと、いろい
ろな工夫をされていることが分かります。収穫
が終わったら次に向けての畑作りをすぐに始め
るというところでもありますとか、おいしいスイ
カを作るために試験栽培を繰り返しているところ
もあります。また、ハウスを使って季節ごと
に出荷できるようにしているところもあります。
生産者の思いの詰まったスイカをこの機会に
ぜひ味わってほしいと思います。

ところで、スイカを食べるときにふさわしい

格好というのはどういうものだろうかというこ
とで、次は半ズボンを取り上げたいと思います。
半ズボンといいますと、子供たちが履いてい
る姿が思い浮かびますが、今日お話ししたいの
は大人の半ズボンについてであります。

これまでも、暑い季節になりますと、部屋着
として使っている方はたくさんいらっしゃった
と思います。また、レジャーの場面などでは、
以前から普通に使われてきたものでもあります。
ちよつとした外出などの際に半ズボンで出かけ
る方もよく目にします。男性の半ズボン姿も、
ふだんの生活の中では受け入れられていると
言っていると思います。

では、仕事の場面ではどうでしょうか。会社
の中で半ズボンで仕事をしているところなど、
なかなか想像できないのではないかと思います。
ところが、最近の新聞に載っていたのは、半
ズボンが仕事着として広がってきているという
ことであります。記事の中では、実際に半ズ
ボン姿で仕事をしている人たちも紹介されてい
ます。これに加えて、役所におきましても、
東京都庁において半ズボンで仕事することが
認められたという話も出ていました。ほぼ毎年
猛暑が繰り返される中におきまして、とうとう
こういう時代になったということでありましょ
うか。このような動きに呼応して、紳士服の売
場におきましても、ビジネス向けの半ズボンが
並ぶようになってきたそうであります。

ただし、これが広く普及するためにはまだま

だ課題も多いように思います。

先ほどの新聞記事の中で紹介されていた人た
ちも、大事な会議のあるときは半ズボンでは出
社しないそうであります。つまり、半ズボンの
着用が仕事の能率アップにつながると思しして
も、やはり状況に応じた対応が必要だというこ
とだと思えます。

かつて公式の会議の場に、スタッフの一人が
半ズボン姿で出席していたことがありました。
みんながスーツを着て出席している中、私はこ
れを見て、大きな違和感を覚えた記憶がありま
す。当時から相当時間がたちましたが、今でも
この感覚は多くの人に共通するのではないかと
思います。

もう一つは、これは日本人独特のことなのか
もしれませんが、要するに、他人が見たくない
ものは隠しておいてほしいという感覚でありま
す。これに対しては、なるべく肌の露出を少な
くするような提案も行われています。例えば、
半ズボンといいますが、長めのものにするであ
りますとか、長めのソックスを着用するという
ようなことであります。また、別の視点からは、
体毛のケアでありますとか、肌を保護するため
の製品なども生まれてきています。

これからも夏の暑さはますます厳しくなるこ
とが予想されています。果たして、仕事の場
において男性の半ズボンは定着していくのであ
りましようか。今後の成り行きに注目していきた
いと思います。(了)